



環境経営レポート



毎年春施設内に営巣するキセキレイ

(2023年10月～2024年9月)



2024年11月23日



ヨシムラ環境整備株式会社

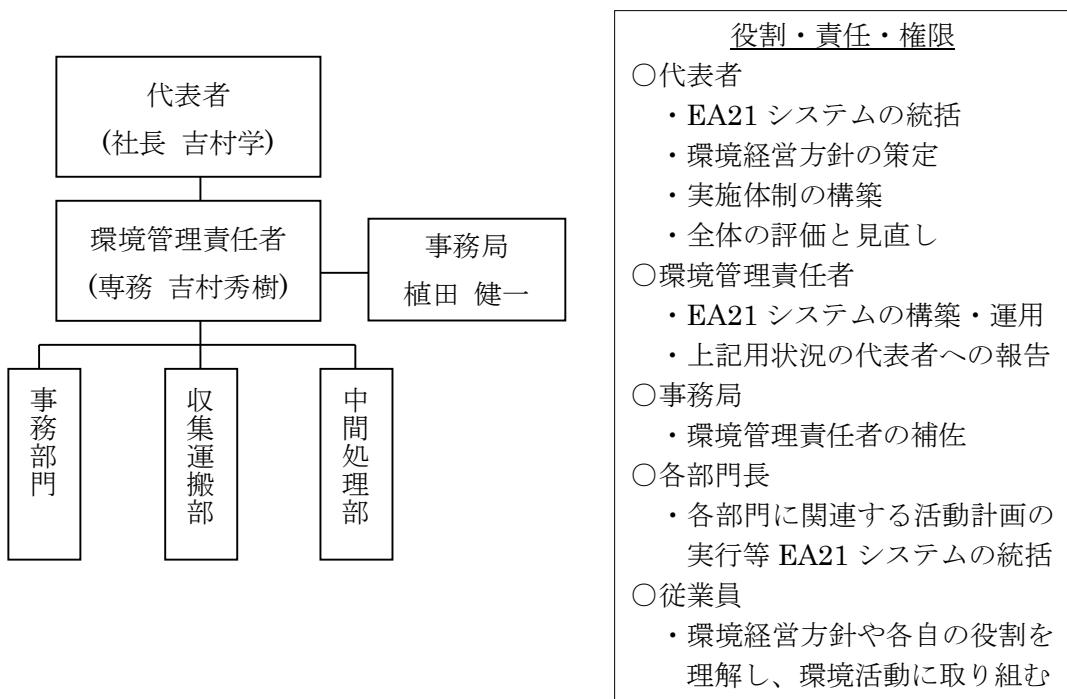
1. 組織の概要

(1) 事業者名：ヨシムラ環境整備株式会社
(2) 代表者：代表取締役 吉村 学
(3) 設立：昭和 55 年（1980 年）10 月 1 日
(4) 資本金：320 万円
(5) 所在地：
本社・工場：広島市安佐北区安佐町大字久地字堀切山 10625 番地 10 他
(6) 事業内容：
産業廃棄物収集運搬業, 産業廃棄物中間処理業, 一般貨物自動車運送事業
(7) 事業の規模
①売上高および工事件数等

項目	単位	2023 年度
売上高	百万円	152
産業廃棄物処理量	収集・運搬 トン	1336
	中間処理 トン	1282

（注）事業年度：10 月～翌年 9 月（エコアクション 21 運用年度も同じ）
②従業員数：9 人
③床面積：本社事務所 29 m²、工場・作業所等 1802 m²

(8) 連絡先：環境管理責任者 吉村 秀樹 (TEL:082-837-1841)
(9) 組織図



2. 対象範囲（認証登録範囲）

全組織・全活動を対象範囲とします。

3. 環境経営方針

本業である廃棄物処理を適正かつ安全に行うとともに、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

1. 環境影響に配慮した事業活動の継続的改善

- ①電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ②中間処理業務における再資源化率の向上に努めます。
- ③節水、グリーン購入に努めます。

2. 法規則等の遵守

事業に関係する諸法令、規則、地域協定を順守し廃棄物の適正処理に努めます。

制定日： 2015年1月20日

改定日： 2020年10月1日

代表取締役社長 吉村 学

4. 環境経営目標、環境経営計画、環境経営目標の実績

(1) 環境経営目標

環境への負荷の自己チェックの結果などを踏まえ、「環境経営目標」を以下のとおり定めました。

また取扱量の増減による電気及び化石燃料使用量の変動に伴う二酸化炭素排出量の増減に対応するため、当該項目において取扱量の単位あたりの目標値を設定することとします。

目標設定表

項目		2022年度	2023年度	2024年度
電気使用量の削減 [基準: 5.610 kwh/t]		△5% 5.330 kwh/t	△6% 5.273 kwh/t	△7% 5.271 kwh/t
化石燃料 使用量の 削減	ガソリン [基準: 3.338 ℥/t]	△5% 3.171 ℥/t	△6% 3.138 ℥/t	△7% 3.104 ℥/t
	軽油(処分業) [基準: 4.271 ℥/t]	△2% 4.186 ℥/t	△3% 4.143 ℥/t	△4% 4.100 ℥/t
	軽油(収運業) [基準: 26.479 ℥/t]	△5% 25.155 ℥/t	△6% 24.890 ℥/t	△7% 24.625 ℥/t
電気及び化石燃料使用に伴う 二酸化炭素排出量の削減 [基準: 85.316 kg-CO2/t]		△5% 81.050 kg-CO2/t	△6% 80.197 kg-CO2/t	△7% 79.344 kg-CO2/t
再資源化率の向上 [基準: 72%]		△5% 82 %	△6% 84 %	△7% 86 %
節水 [基準: 65 m³]		△5% 61 m³	△6% 61 m³	△7% 60 m³
グリーン購入の推進		5品目以上	5品目以上	5品目以上

(注) 1. 電気使用量削減の基準値は 2017 年度同期間の実績値を同年中間処理量 (=1,724.4589t) で除した値、化石燃料使用量(軽油(処分業)を除く)の削減基準値は 2017 年度実績値を同年収集運搬量 (=1,584.1295t) で除した値、節水の基準値は 2017 年度実績値とした。軽油(処分業)は 2020 年度同期間の実績値を同年中間処理量 (=1,743.6626t) で除した値とした。なお「電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量の削減」の目標値算出は、下記[表 1]の通りとした。

2. 一般廃棄物は、排出量が少ないとから削減目標は設定していないが、分別等の取組は徹底することとしています。

3. 化学物質は使用していません。

【表 1】基準年（2017 年度）における二酸化炭素排出量の原単位評価指標の設定

基準年：2017 年度	実数	原単位指標
電気からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂) ※	6,469.899	
中間処理量 (t)	1,724.4589	3.75184
化石燃料からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	129,207.819	
収集運搬処理量 (t)	1,584.1295	81.56392
□二酸化炭素排出量の総量 (Kg-CO ₂)	135,678	85.316

※中国電力の 2017 年度排出係数 0.677 kg-CO₂/kWh を用いて設定した。

(2) 2023年度の環境目標達成状況

項目	単位	目標値	実績	評価
電気使用量の削減	Kwh/t	5.273	6.856	×
化石燃料使用量の削減	ガソリン	3.138	1.268	○
	軽油(収運業)	24.890	27.763	×
	軽油(処分業)	4.143	6.085	×
電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /t	80.197	91.971	×
再資源化率の向上	%	84	83	×
節水	m ³	61	133	×
グリーン購入の推進		5品目以上	5品目	○

上記、電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量実績は、91.971kg-CO₂/tとなり、目標値80.197kg-CO₂/tに対し、114.68%との結果となった。(購入電力の二酸化炭素排出係数は、中国電力の2017年度の調整後排出係数0.677kg-CO₂/kwhを使用した。)実績値の算出については下記[表2]を参照の事。

【表2】各項目の原単位評価指標への変換

2023年度	実数	原単位指標
(a)電気からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	5,950.83	(a)/(b)=
(b)中間処理量 (t)	1,282.0093	(A) 4.64180 (Kg-CO ₂ /t)
(c)化石燃料(処分)からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	20,126.58	(c)/(b)= (C') 15.69925 (Kg-CO ₂ /t)
(d)化石燃料(収運)からの二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	95,731.75	(d)/(e)= (C'') 71.62950 (Kg-CO ₂ /t) (C')+(C'')=
(e)収集運搬処理量 (t)	1,336.485	(C) 87.32875 (Kg-CO ₂ /t)
□二酸化炭素排出量の総量 (Kg-CO ₂)	125,741.10	(A)+(C)=91.97055 (Kg-CO ₂ /t)
(f)電気使用量 (kwh)	8,790.00	(f)/(b)=6.85642 (kWh/t)
(g)ガソリン使用量 (ℓ)	1,694.80	(g)/(e)=1.26810 (ℓ/t)
(h)軽油(収運業)使用量 (ℓ)	37,105.33	(h)/(e)=27.76337 (ℓ/t)
(i)軽油(処分業)使用量(ℓ)	7,801.00	(i)/(b)=6.08498 (ℓ/t)

5. 主要な環境活動計画の内容と取り組み結果の評価、次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境目標の項目毎の環境活動計画の内容と取り組み結果の評価を以下に示します。

(1) 電気使用量の削減

目標達成できなかった。

引き続き電気使用量削減に取り組む。

(2) 化石燃料使用量の削減

【ガソリン】

目標達成できた。引き続きエコドライブを実践する。

【軽油】※車両

目標値に達成していない。今一度ふんわりスタートの実施を徹底する。

【軽油】※処分業

目標値に達成していない。不要なアイドリングを控える。

(3) 産業廃棄物再資源化の徹底

前年対比 3 ポイント向上しているものの、目標達成できなかった。

更なる分別の徹底を図るとともに、リサイクルルートの新規開拓を模索する。

(4) 節水

目標値に達成していない。こまめな水量調整を実施する。

(5) グリーン購入の推進

目標値に達成している。引き続きグリーン購入を取り組む。

(6) その他の活動

《具体的な活動内容の一例》

① 一般社団法人広島県資源循環協会のイベント参加

- ・環境経営などについて意見交換、情報交換



② 処理施設公開

- ・県外中間処理会社様ご訪問
- ・施設の説明。処理前の異物除去(リチウムイオン電池等)の方法や処理後の最終処分先などの情報交換、意見交換



(7) 次年度(2024年度)の環境経営目標及び環境経営計画

項目	単位	目標値	環境経営計画
電気使用量の削減	kwh/t	6.788	①エアコン設定温度の管理（事務所） ※冷房28度、暖房20度 ②エアコンフィルターの清掃（年2回以上） ③不要照明の消灯 ④断熱遮熱の推進
化石燃料 使用量の 削減	ガソリン	ℓ /t	①営業ルートの効率化 ②エコドライブの徹底
	軽油(処分業)	ℓ /t	①破碎機及び重機の省エネ運転 ②空転時間を短縮する工夫
	軽油(収運業)	ℓ /t	①ふんわりスタートの実施 ②車両の日常点検の励行
再資源化率の向上	%	84	①分別の徹底
節水	m³	131	①業務全般に渡る節水 ②こまめな水量調整
グリーン購入の推進	-	5品目以上	①購入品の調査・リスト作成 ②エコマーク商品調査 ③グリーン購入対象商品の特定・目標設定

(注) 次年度(2024年度)の目標値は、代表者の見直し指示に基づき、新たに直近の2023年度を基準として設定した値である。

6. 環境関連法規制等の遵守状況

環境関連法規等	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	産業廃棄物の許可の有効期間の確認 収集運搬車両への表示と書面備付け 収集運搬管理帳簿の作成・保存 マニフェストの管理 保管基準の遵守 産廃処理業者との委託契約の締結 処理状況の確認 処理能力の確認 マニフェストの交付 処理実績報告書の提出	○
オフロード法	技術基準に適合した車両の使用	○
自動車リサイクル法	再資源化預託金等の預託義務 登録引取業者への廃車の引渡義務	○
家電リサイクル法	事業者及び消費者の義務	○
騒音規制法	規制基準の遵守義務 特定施設の設置届出 特定施設の数等の変更の届出	○
振動規制法	規制基準の遵守義務 特定施設の設置届出 特定施設の数等の変更の届出 氏名の変更等の届出	○
広島県生活環境の保全等に関する条例	粉じん関係特定施設の設置等の届出 基準遵守義務	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品を対象とした簡易点検の実施	○
消防法	指定数量未満の危険物等の貯蔵及び取扱いの届出	○

適用される主な環境関連法規制は廃棄物処理法他、上記表に記載の通りです。遵守評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去3年間、当局からの違反の指摘や訴訟もありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直しの指示

燃料、電力等の削減目標については未達成部分が多くあるが、収集運搬量、処理量の増加及び夏場の暑さ対策等した結果やむを得ないと考える。

また現行の基準年度から(2017年度)から7年が経過し、環境の変化や数値の乖離が大きくなってきたため、新たに直近の2023年度を基準として環境目標を設定する旨の指示を出した。

今年度も今までと同様に各法令順守し、かつ会社全体で安全作業に取り組んでいきたい。

8. 廃棄物処理業に関する情報

(1) 許可の内容

①一般廃棄物

なし

②産業廃棄物

a 許可品目

許可品目	収集運搬業(上段:許可年月日 下段:有効年月日)						処分業 広島市
	広島市	広島県	山口県	岡山県	島根県	鳥取県	
	2018/10/12 2025/10/11	2018/11/24 2025/11/23	2019/10/13 2026/10/12	2018/10/1 2025/9/30	2018/9/5 2025/9/4	2018/9/1 2025/8/31	
燃え殻	○	○	○				
汚泥	○	○	○	○	○	○	
廃油	◎	○	○	○	○	○	
廃酸	○	○	○				
廃アルカリ	○	○	○				
廃プラスチック類	◎	○	○	○	○	○	○
紙くず	◎	○	○	○	○	○	○
木くず	◎	○	○	○	○	○	○
繊維くず	◎	○	○	○	○	○	○
ゴムくず	◎	○	○	○	○	○	○
金属くず	◎	○	○	○	○	○	○
ガラスくず等	◎	○	○	○	○	○	○
がれき類	◎	○	○	○	○	○	

○: 積替保管を含まない

◎: 積替保管を含む

b 許可番号

管轄	許可の種類	許可番号
広島市	産業廃棄物収集運搬業(優良)	07310010149
	産業廃棄物中間処理業(優良)	07320010149
広島県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03409010149
山口県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03500010149
岡山県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03301010149
島根県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03200010149
鳥取県	産業廃棄物収集運搬業(優良)	03104010149

c 事業の区分

産業廃棄物収集運搬業

産業廃棄物中間処理業 中間処理(破碎)

一般貨物自動車運送事業

(2) 施設等の状況

①設備概要

車両台数

車種	台数	備考
8t脱着装置付コンテナ車	2 台	
8tクレーン付ダンプ車	2 台	
3t脱着装置付コンテナ車	1 台	
3tクレーン付パワーゲート車	1 台	18年度増車
3tパワーゲート車	2 台	20年度増車
1.5tパワーゲート車	0 台	21年度減車
合計	8 台	なお別途営業車両1台あり

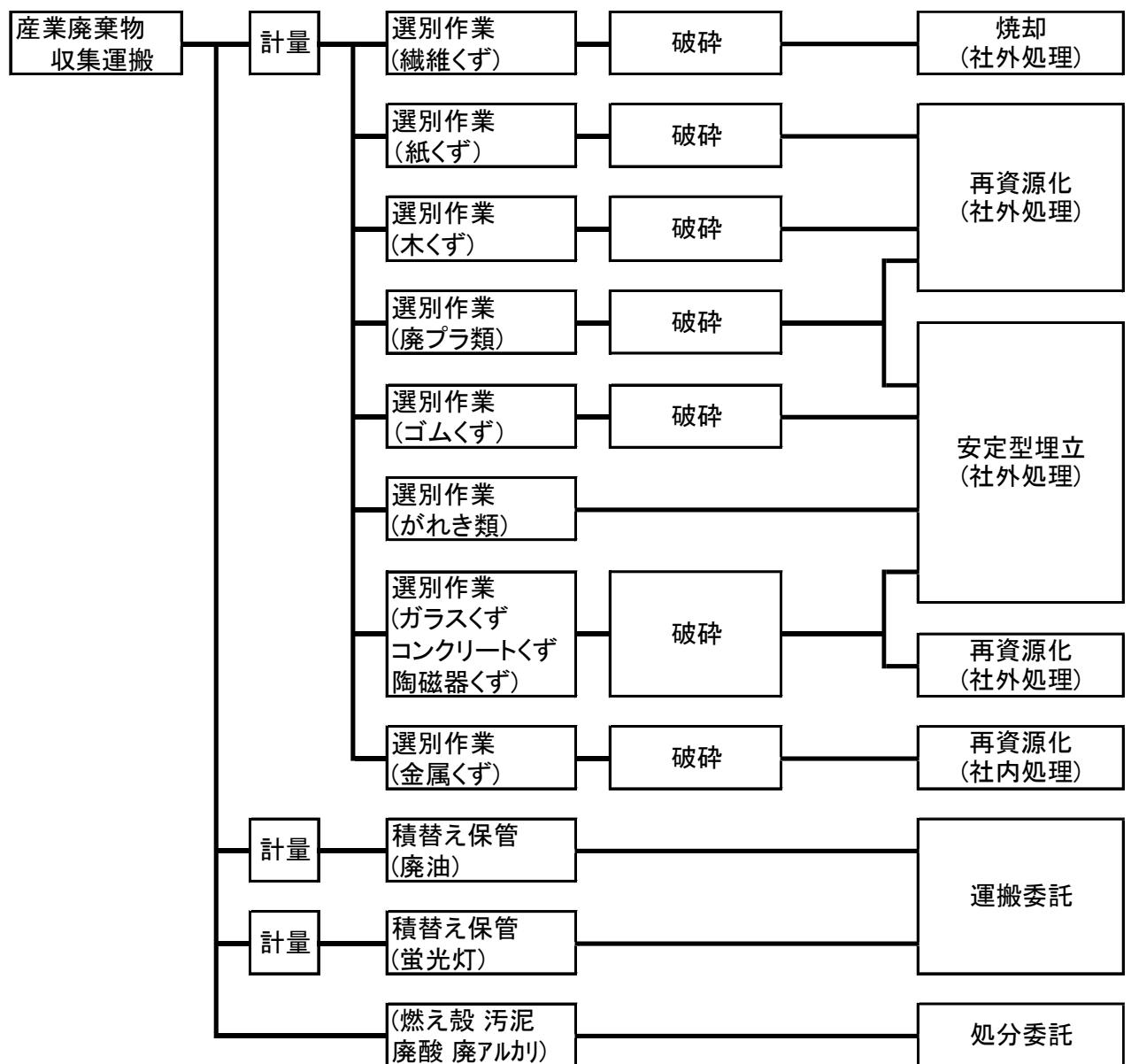
主要設備

名称	台数	備考
2軸せん断破碎機	1 基	20年度更新
40tトラックスケール	1 基	
2tフォークリフト	2 台	20年度減車
0.25m ³ バックホウ	3 台	

積み替え保管施設

名称	保管面積	保管上限量	備考
ヨシムラ環境整備(株)	64.15 m ²	95.84 m ³	

処理工程図



(注) 処理能力は、廃プラスチック類 4.83t/日、紙くず 4.21t/日、木くず 4.86t/日、纖維くず 2.81t/日、ゴムくず 4.60t/日、金属くず 4.83t/日、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず 4.61t/日 (8H)

(3) 処理実績

2023年度 (2023年10月～2024年9月)

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
(i) 収集運搬	コンクリートくず		0
	廃油		20.31
	金属くず		489.047
	ガラス陶磁器くず		7.84
	紙くず		18.891
	廃プラスチック		710.965
	木くず		52.512
	繊維くず		0
	ゴムくず		0
	がれき類		33.92
	燃えがら		0
	汚泥		0
	廃酸		0
	廃アルカリ		0.3
	石綿含有廃棄物		0
	水銀使用製品産業廃棄物		2.7
	収集運搬量合計		1336.485
(ii) 中間処理	コンクリートくず	破碎	1.12
	金属くず	破碎	497.1718
	紙くず	破碎	14.178
	廃プラスチック	破碎	716.5175
	木くず	破碎	53.022
	繊維くず		0
	ゴムくず		0
うち 再資源化等	金属くず		497.1718
	廃プラスチック		504.183
	コンクリートくず		0
	紙くず		14.178
	木くず		53.022
再資源化等量小計		1068.5548	
中間処理合計		1282.0093	
(iii) 最終処分			0
			0
			0
最終処分量合計		0	
(iv) 中間処理後の 産業廃棄物	最終処分	廃プラスチック	212.3345
		コンクリートくず	1.12
		ゴムくず	0
		繊維くず	0
	再資源化等	金属くず	497.1718
		廃プラスチック	504.183
		コンクリートくず	0
		紙くず	14.178
		木くず	53.022
	再資源化等量小計		1068.5548
中間処理後処分量合計		1282.0093	